

基老連 ニュース

★79号

基老連の目的

ボケ防止のために、老人囲碁同好者の誰もが
「碁を楽しむ」ことが出来よう、機会と場所
を確保するために相模カシ、囲碁を通じて親睦
を図り、更には、より良き福祉社会の建設に貢
献することを志願とする。

発行日 平成8年8月8日
発行所 八王子の碁と茶の老人連合
〒193 八王子市初沢町1434-46
TEL (0426) 66-3754
発行人 熊崎正一

ボケ防止のための碁界囲碁長寿大会

日時 平成8年7月28日午前9時
会場 横山事務所 (並木町15-15, 電61-1281)
主催 長寿囲碁同好会 (会長 小西 徹, 長沢町230-17, 電63-9684)
共催 八王子の碁と茶の老人連合 (碁老連)
後援 八王子市、八王子市教育委員会、日本棋院
参加資格 長寿町、並木町、千人町、散田町、日吉町、元本郷町、山日町に在住し
ている60才以上、10級以上の碁界愛好者
参加費 600円 (弁当代を含む)
観戦料 5クラス別に「観戦券(3位まで)」を決定し、賞状を授与する。
特典 成績により下記大会に推薦可能。
8月25日開催の八王子大会
次の通り

平成8年7月28日午前9時
年の横山事務所 (並木町15-15, 電61-1281)
長寿囲碁同好会 (会長 小西 徹, 長沢町230-17, 電63-9684)
八王子の碁と茶の老人連合 (碁老連)
八王子市、八王子市教育委員会、日本棋院
長寿町、並木町、千人町、散田町、日吉町、元本郷町、山日町に在住し
ている60才以上、10級以上の碁界愛好者
600円 (弁当代を含む)
5クラス別に「観戦券(3位まで)」を決定し、賞状を授与する。
成績により下記大会に推薦可能。
8月25日開催の八王子大会
次の通り

Aクラス(4級以上)成績表

平漢

1	2	3	2	2	1	3	0	2	計	勝数	
X	0	0	④	X	0	X	0	X	④	三回戦	
藤小	井小	井不	不	塚平	尾小	佐不	不	不	不	対高者	
井西	井不	不	不	原山	谷川	藤不	不	不	不	対高者	
0	X	X	0	④	0	④	0	X	X	二回戦	
佐平	石不	不	不	不	小不	新不	不	不	不	対高者	
藤山	川谷	不	不	不	不	不	不	不	不	対高者	
X	X	0	0	0	X	X	0	X	0	一回戦	
石佐	佐佐	佐平	佐平	藤小	塚平	尾小	佐平	佐平	佐平	対高者	
川谷	藤山	佐平	佐平	井川	川原	井保	西保	西保	西保	対高者	
11	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1	HD
平山	佐藤	尾谷	石川	佐藤	小川	藤井	松井	塚原	小西	新保	佐保
智之	要之	孝之	義之	和之	和之						
4	5	6	4	5	7	6	4	4	6	5	級

三位決定戦
才三位
藤原
藤井
石川
藤原

塚小	藤小	石川	塚原
藤原	井川	井川	和利
和利	勇	義	和利
4	7	6	4

B772 (2級・3級) 成績表

手選

3	1		2	2			1	1	計	勝		
0	X		X	0			X	0	勝	數		
大	牧		森	名			高	山	對	三		
野			因	取			橋	崎	局	回		
0	0		X	0	0	X		X	對	二		
石	秋		山	小	牧	大	藤	高	局	回		
取	山		崎	田	野		園	橋	對	戰		
0	X		X	0	X	0		0	X	勝		
藤	山		小	大	秋	小	高	取	名	對		
園	崎		野	山	田	橋	藤	取	局	戰		
12	11	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1	NO
石	藤	山	佐	秋	大	高	小	興	城	名	牧	參
井	園	崎	藤	山	野	橋	田	一	定	取	進	加
北	光	修	修	志	野	長	二	一	一	進	進	者
之	四	修	修	作	野	久	久	一	一	進	進	者
3	3	2	2	2	2	3	3	2	2	2	2	做
藤	園	崎	藤	山	野	橋	田	一	一	進	進	者

優勝

次勝戦

山崎

三位決定戦

才三位

高橋

華優勝

山崎

藤園	光四郎
高橋	良太郎
石井	三

大野	高橋	藤園	山崎
野	聖	良太郎	光四郎
二	三	三	二

C772 (初級・準初級) 成績表

手選

2	1	2	3	3	1	2	2		1	0	1	計	勝	
0	X	0	0	④	0	X	0		X	X	X	勝	數	
高	田	長	梅	和	和	細	笠		崎	田	川	對	三	
橋	中	田	井	不	和	井	原		崎	中	村	局	回	
0	X	0	0	0	X	0	X		⑤	X	X	對	二	
空	細	中	和	田	川	長	奇		不	崎	梅	對	回	
井	井	田	田	田	村	原	藤		不	取	天	局	戰	
X	0	X	0	0	X	④	0		X	X	0	對	一	
和	崎	細	川	田	春	藤	原		取	空	原	局	戰	
田	井	井	村	正	藤	原	原		取	空	原	對	回	
14	13	12	11	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1	NO
崎	和	川	細	春	田	梅	高	田	小	石	高	空	長	參
雄	利	炎	昌	正	慶	長	昌	知	知	京	區	區	備	加
幸	市	二	男	和	水	好	一	林	林	一	一	一	一	者
新	新	新	新	新	新	新	新	新	新	新	新	新	新	者

優勝

次勝戦

田中園

三位決定戦

才三位

細井

華優勝

田中園

香園

崎	細	井
雄	幸	新

崎	田	香	細
雄	中	園	井
幸	一	香	昌
新	新	新	初

D.E 752 (2級~10級)成績表

手選

優勝
中野
三位決定戦
石川
高瀬
中野
山下 佐藤 初 6 3
高瀬 山下 佐藤 初 4 6 3 2

殊勝戦

	2	2	1	2	1	1	3	1	2	2	1	1	1	3	計	勝	
	X	X	X	0	0	X	0	X	0	0	X	0	X	0	山	三	回
中	高	小	並	谷	松	山	野	保	大	大	石				山	對	局
野	林	木	津	本	田	口	坂	野	越	川					下	對	局
X	0	0	0	X	X	0	0	X	0	X	X				0	山	對
大	野	石	下	中	秋	山	谷	保	大	高	保	山				小	對
越	口	川	野	崎	田	津	藤	本	野	彌	坂	下				林	對
X	0	0	X	0	X	X	0	X	0	X	0					山	對
山	保	並	大	小	高	保	石	大	谷	野	山					中	對
下	藤	木	本	野	林	崎	珠	川	秋	津	崎	口	田	新		山	對
16	15	14	13	12	11	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1	NO	
保	山	松	並	小	大	保	高	大	石	谷	山	野	中	女	參		
藤	下	本	木	林	野	坂	瀬	越	川	崎	津	田	口	野	花	名	
信	佐	重	重	貞	光	八	米	泰	義	義	米	勝	花	貞	名		
次	藤	助	助	吉	男	重	子	三	夫	一	吉	久	一	男	二		
10	6	6	5	5	5	4	4	4	3	4	3	4	3	2			

団体対抗戦参加者 (7回戦 8月15日)

順位	氏名	順位	氏名	順位	氏名	順位	氏名
長 原		元 八		中 井		北 野	
6	小西 徹	6	山下 則文	6	藤井 総	6	山本 海三
5	佐藤 野吉	5	清水 勇	5	花井 進	5	鎌倉 正晴
4	平山 肇之	4	戸泉 嘉治	4	巻田 高尾	4	尾谷 一郎
3	市川 隆一	3	長瀬 利幸	3	福田 喬	3	山本 林
2	山崎 修	2	八木 真助	2	吉田 国男	2	横瀬 正
初	香藤 豊	初	真辺 保幸	初	福嶋 達樹	初	佐藤 吉男
次 川		田 木		大 和田		中 野	
6	城 大次郎	6	鈴木 良平	6	松谷 泰夫	6	改本 勝
5	河川 巨星	5	松神 辰寿	5	佐藤 深次	5	中田 勤
4	藤本 敏部	4	八尾 正則	4	岡本 昭二	4	城部 信広
3	中野 健	3	竹島 政義	3	宗藤 久雄	3	千原 和夫
2	練原 明	2	藤田 知輝	2	梅井 謙	2	小堀 久幸
初	折井 豊	初	吉沢 真人	初	佐藤 文良	初	横松 森一

注: 上・下24-1が対戦相手。上級は主催4-1

第6回木下杯のための啓蒙用基八王子大会実行委員

(8月25日総合福祉センター)

大会委員	熊崎正一	基光連会長	大会準備
委員長	佐藤木	基光連総合企画部長	大会総括
副委員長	鈴木松	〃 表参道当副会長	賞状宛名
〃	植塚口	〃 研修部事務長	会場整理
委員	山田	浅川 再団基同好会 総務担当副会長	
〃	西山	元八	
〃	大本	鬼方	
〃	佐藤	中野	
〃	石黒	大和田	
〃	福田	石川	
〃	小林	由井	
〃	佐々木	笠所	
〃	野村	柳井	
〃	雨宮	柳井	
〃	五川	北野	
〃		長	
2. 統括委員	山城	基光連技術顧問	
委員長	栗島	浅川 再団基同好会 (7段)	
委員	不取	中野 (6段)	
〃	藤田	浅川 (5段)	
〃	新保	由井 (〃)	
〃		北野 (〃)	
3. 審判委員	永山	基光連技術顧問	
判長	安原	〃 (兼任)	
判員	二短		
委員	永		
4. 運営委員	石川	長房 再団基同好会	統括委員補
〃	井	元八	
〃	米	〃	
〃	野	〃	
〃	水谷	基光連研修委員	
〃	津	〃	
5. 準備委員	高橋	元八 再団基同好会	基光連副総
委員	長島	〃	
〃	松井	長房	
〃		〃	

(11)

団体対抗戦成績表 (6回戦7月21日)

浅川 4-6 (勝率 4) 由井 4-6 (勝率 4)

名 次	対戦 相手	浅川						勝
		6	5	4	3	2	初	
	森田 5		△0	○				
6	渡辺 7	X	△0	○				
5	梅田 6	○	△0	○				
4	保野 5	X	△0	○				
3	奥村 3				△0	X	X	
2	石橋 2				△0	○	X	
初	堀口初				△0	X	X	
	勝計	2	△0	○	△0	2	3	

中野 4-6 (勝率 3) 元八 4-6 (勝率 3)

名 次	対戦 相手	中野						勝
		6	5	4	3	2	初	
	柳上 7		○	○				
6	黒沢 6	X	○	○				
5	根本 5	X	X	X				
4	大本木 2	○	○	X				
3	牧 2				X	X	○	
2	石橋 2				X	X	○	
初	北田初				X	○	○	
	勝計	2	1	2	3	2	○	

大和田 4-6 (勝率 2) 北野 4-6 (勝率 3.5)

名 次	対戦 相手	北野						勝
		6	5	4	3	2	初	
	山本(備) 6		○	○				
6	龜谷 6	○	○	○				
5	藤原 4	X	X	X				
4	一谷 4	○	○	X				
3	若田 3				X	○	X	
2	山崎初				○	X	X	
初	石田初				X	○	X	
	勝計	1	1	2	2	1	3	

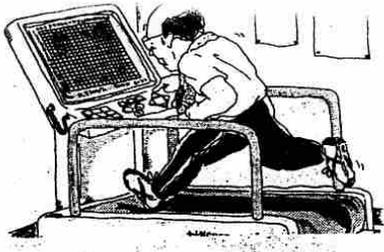
中木 4-6 (勝率 2.5) 長英 4-6 (勝率 2.0)

名 次	対戦 相手	長英						勝
		6	5	4	3	2	初	
	小川 7		○	○				
6	吉成 6	○	X	X				
5	谷原 4	X	X	○				
4	越 4	○	X	X				
3	内山 3				○	○	○	
2	嶋根 2				○	X	X	
初	新橋初				○	X	○	
	勝計	1	3	2	○	2	1	

(5)

脳の働きから見ると

金子満雄



皆で老人ボケを
出す(その1)

ちの神経心理士のTさんが
満面であつて来た。「見て
さい。Kさんは何と3ヶ月
んなに良くなつたんです
と。MM Sの点数は20点か

ら28点に上昇し、かなひろいテ
ストも正常に戻っているではな
いか。驚いた。中ボケからイキ
ナリ正常に戻つたのだ。

72歳のKさんも「若い頃、碁
を打つたことがある」というの
で、碁のリハビリ・コースへ行
つてもらつたのだが、打つてみ
たら面白くて、この3ヶ月間、
毎日通つたのだという。普通な
ら、せいぜい週2〜3回で、そ
れで6ヶ月までに改善してくる
程度であつた。

「碁でボケを治す」ことを私
達のところで始めてから、もう
十年にもなるだろうか。確かに
これほどボケに著効のある方法
は外にはない。

普通の老人性痴呆で、重度ま
で進んでいない患者さんが、も
「若い頃、一寸へボ碁を打

つたことがあります」と言つて
くれれば、私達はもうバンバン
ザイである。「よし、それで治
そう」と、治療法はすぐに決ま
る。それほど、「碁を知ってい
ること」は大きな財産なのであ
る。その反面、碁を知らない人
に高齢になつてから、初めて碁
を憶えさせることは至難の業で
ある。

勿論、これまで、ずっと碁を
打つてきた人なら、まず、ボケ
ることではない。そのことに関し
ては、これまで私が色々な雑誌
に書いてきたが、その後も調査
はかなり進んだ。殊に東京近郊
の八王子を中心に、「ボケ予防
のための高齢者囲碁大会」が開
かれるようになり、そこを熊崎
会長さんにお願ひして、参加者
の脳機能を測定させてもらつた
頃から調査は更に進んだ。これ
までに調べた人は1500人を
越しただろう。結論から言えば、

「毎週2〜3回、碁を楽しんで

いる高齢者にはまず、ボケは起
こらない」であつた。

私の痴呆外来の患者さんも、
この12年余で既に15、000
人を越えたが、普通の老人性痴
呆になるような人には、「碁が
好き」とか、「いつも碁を打つ
ている」とかいうような人はま
ず、見当らない。

ここで、老人性痴呆の内訳を
少し、説明しておく必要がある
だろう。

私達が軽度、中等度の痴呆の
人を細かく精密検査をして分析
してみた結果、これまでの見方
とは随分違つた結論が出てきた
のだ。痴呆の大部分(約9割)
はその人の生活環境因子によつ
て起こつたもので、つまり、

「脳を衰えさせるようなマズイ
生き方」をしてきた人からボケ
は早々に起こつていくことが分
かつたのである。これを私達は
老化・廃用型痴呆(本態性痴呆
または普通の老人性痴呆)と呼

ぶことにした。前からアルツハ
イマー型痴呆などと呼ばれてき
たものは大部分がこの部類のも
のだつたのだ。遺伝子異常によ
る、「思まわしい病氣」として
のアルツハイマー病は数%しか
ないことも分かつてきたし、脳
の血管の異常による血管性痴呆
も5%弱しかなく、ことも分か
つた。そこに環境要因としての碁
を含むゲーム類や音楽、絵画、
スポーツなどの意味が出てきた
のである。

※MM S(ミニ・メンタル・ス
テイツ)Ⅱ痴呆の程度を測るシ
ステムで、中、重症の患者に用
いられる。

(つづく)

(7)

棋道

5月号より連載

「ボケない生き方革命」の購入希望者募集の件

標記の金子彌雄先生著「ボケない生き方革命」に関しては、前回の暮花連ニュースの号にて御推薦申し上げましたが、会員の方々より「各書店に在庫がないので、暮花連で一括購入して欲しい」との要請がありました。御意を申し出と納得、協議の結果、お取り次ぎすることに致しました。実は、先んず、金子先生より同書を御意贈頂き、早速関係先(6冊誌)に郵送不能の近人の書店に参りおられた所在庫がなく、何軒も尋ね歩き、八王子駅前の人まじわ書店で1冊だけ探し当てました。

後5冊、八王子の主要書店17軒に電話で問い合わせましたが1冊も見当らず、已むなく、発行元の海竜社より5冊送って頂かれましたよな次です。

以上の様な経緯のもと、暮花連で「一括扱い」を実施するため、取次が海竜社に「参考見本用」として2冊(同好会、研修会、他)を注文し、7月15日までに郵送を完了致しました。(規模提供の御協力を頂きました。)尚、取次ぎ方法に関しては、海竜社と打合せ、次のように取り決めました。

1. 暮花連では、各同好会別の購入希望数を取りまとめ、海竜社に対し、各同好会別に直接郵送して頂くよう午郵で頂く。
2. 代金決済は、直接同好会が行う(豫習用紙同封)
3. 各同好会では、購入希望者の御意向により、期間内に何回でも御申込下さい。但し、同好会別の購入申込数は1口5冊以上とする。
4. 暮花連の取次ぎ期間は7月30日(受付)までとし、期後の購入希望者は、書店より直接購入して頂く。(8月31日の予定を会員の要請により1ヶ月延期)
5. 特別頒布価格1,200円(定価1,500円)。(熊崎)

追記

金子先生は、7月15日から19日までの5日間、NHKのラジオ第1、午前9時55分の「健康道」で「ボケに挑む」と題して放送されました。

早い、テープに収めましたが、要約の方と、「ボケは直る」此のためには、早期発見、早期治療が基本となる。

ボケには、「小ボケ」、「中ボケ」、「大ボケ(アルツハイマー)」の3種類があり、早期発見のためには、後述方式診断法を活用すればよい。

小ボケは、衰微の愛惜と思いきりとり回復の可能性が多く、努力すれば心臓方程度のことは無いが、御本人の順応性と自覚がオーの条件となる。

但し、中ボケは、大ボケに悪化する危険性があり、専門医に相談すべきである。

この際、特筆したいことは、(1)、物忘れはボケの始まりとなるのは間違いで「美化現象」となりと宣言されており、英人にとっては、画期的な朗報である。

(2)、ボケ予防に関しては、一次的には、医者ではなく、「全国の保健所を中心とした地域住民との密接な連携が必要」と主張されているが、これ又、画期的な提言として脚光を浴びる時が来るのは必定と確信しております。

何れにしても、ボケに関わる不善策は(私の所感として)「ボケない生き方革命」を準備書として活用し、家族全員が理解し、協力し合うことです。